

# 若葉台からの風

鳥取環境大学経営学部



北崎 寛

Aさんは、端然とし、また凛として。志を抱いた人に見られるどこか、優しい意志を裡に秘めている。お会いしたとき、そんな印象を得た。30歳半ばであろうか。2011年に家族、実弟とともに、関東から智頭町八河谷に移り住んだ。

60人ほどいた人口も37人である。高齢者が人口の過半を占める。Aさんがこの地で試みているのは、智頭麻の栽培と麻油・麻味噌などの加工品生産である。13年に鳥取県から大麻栽培者免許を取得し、翌年自ら会社を設立した。Aさんによると、1914年には旧智頭郡で麻の栽培面積が55畝あり、麻繊維を魚網・豊糸・麻布などに加工し、また種子をいつて味噌や豆腐に入れたりしていたらしい。戦後、大麻取締法が施行され、栽培者がいなくなった。八河谷に住み始めたころ、集落の古老から往時の話を聞き、この地での栽培復活を決意した(栽培する品種はマリファナ効果のないものである)。全国的麻の作付面積は現在6畝ほどで、うち鳥取は約0.7畝である。その希少性が分かる。志を立てた人の熱が伝播し、その熱を分かち合う仲間ができるのにそう長い時間はかからなかった。Aさんの静謐な哲学と志、さらに情熱が地域や行政との連携を生み、

## 八河谷の静謐な鼓動



冬の八河谷集落

培する品種はマリファナ効果のないものである)。全国的麻の作付面積は現在6畝ほどで、うち鳥取は約0.7畝である。その希少性が分かる。志を立てた人の熱が伝播し、その熱を分かち合う仲間ができるのにそう長い時間はかからなかった。Aさんの静謐な哲学と志、さらに情熱が地域や行政との連携を生み、

(教授)

(一)の連載は今回で終わります)